

2022年10月9日 午前礼拝
「みことばを成就される神」 説教者:堺希望伝道師

【メイン聖句】

イザヤ 55:10~11

10 雨や雪が天から降ってもとに戻らず、必ず地を潤し、それに物を生えさせ、芽を出させ、種蒔く者には種を与え、食べる者にはパンを与える。

11 そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、むなしく、わたしのところに帰っては来ない。必ず、わたしの望む事を成し遂げ、わたしの言い送った事を成功させる。

【引用聖句】

マタイ 1:18~25

18. イエス・キリストの誕生は次のようであった。その母マリアはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。

19. 夫のヨセフは正しい人であって、彼女をさらし者にはしたくなかったので、内密に去らせようと決めた。

20. 彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れないうあなたに妻マリアを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。」

21. マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」

22. このすべての出来事は、主の預言者を通して言われた事が成就するためであった。

23. 「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を生む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)

24. ヨセフは眠りからさめ、主の使いに命じられたとおりにして、その妻を迎え入れ、

25. そして、子どもが生まれるまで彼女を知ることがなく、その子どもの名をイエスとつけた。

【説教要約】

①結婚について

マタイ 1:18

イエス・キリストの誕生は次のようであった。その母マリアはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。

イスラエルでは、一年ほど婚約期間を経てから正式に結婚式を挙げます。婚約期間中も法律上は結婚していることになっているのですが、一緒に住んで夫婦となるのは結婚してからです。

申命記 22 : 20-21

20. しかし、もしこのことが真実であり、その女の処女のしるしが見つからない場合は、
21. その女を父の家の入口のところに連れ出し、その女の町の人々は石で彼女を打たなければならない。彼女は死ななければならない。その女は父の家で淫行をして、イスラエルの中で恥辱になる事をしたからである。あなたがたのうちから悪を取り去りなさい。

伴侶が決まっているにも関わらず、自分の意志で伴侶以外の人と関係を持った場合、その人は死に当たりました。厳しすぎると思われるかもしれませんが、結婚は神様が造られた特別な式典だったのです。

エペソ 5 : 31-32

31 「それゆえ、人は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となる。」
32 この奥義は偉大です。私は、キリストと教会とをさして言っているのです。

結婚はもともと、神様の愛を現わしたものであったのです。イエス様が教会を愛した姿が夫の姿。キリストに従う教会の姿が妻の姿。教会とは場所のことではなく、イエス様の愛と赦しを信じて救われた人たちの集まりのことです。

結婚には、イエス様と教会の姿を見ることができのです。イエス様の愛がどれほど変わらず尽きないものであるか、夫の愛を見れば分かります。教会がイエス様を慕い、信頼し従う者であることが、妻の姿勢から分かります。

結婚の苦勞も知らない者が申し上げて恐縮なのですが、そのような素晴らしいものとして神様は結婚を定められたということです。

今日では、このような貞操観念は時代遅れのものとして呆れられます。今は個人の自由の時代。自分の体をどうしようと、好きな人と何をしようが自由だと言われます。

ですが、それは「結婚」が何であるのか知らないからそう言えるのです。神様が自分を造られたことも、結婚を造られたことも知らないから、何が正しいのか自分で決めているのです。自分の体を本当に大切に扱うことも、結婚の本当の素晴らしさを味わうこともできません。

今、本当に幸せな結婚生活を送っているカップルはどれだけいるのでしょうか。「自分が幸せだと思ふこと」を求めて結婚する人が多いのではないかと思います。本当の幸せは自分が何のために造られ、結婚が何のためにあるのか知らなければ得ることはできません。

話が戻りますが、不貞を死によって罰するのは、「結婚」のきよさを守るためです。もし不貞を許せば、結婚は壊れ、本来の意味も失われます。神様の愛は分からなくなります。神様にとって非常に重要なことであるので、これほど厳しいのです。

結婚の本当の素晴らしさは、イエス様が教会を迎えに来られる時に分かります。法律上は夫婦ですが、婚約期間が一年あるように、私たちも今は婚約期間にいるのです。イエス様とお会いする日のために、日々罪を悔い改めて、きよめていただくことが大切です。

②ヨセフの信仰

マタイ 1 : 18-19

18. イエス・キリストの誕生は次のようであった。その母マリアはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。
19. 夫のヨセフは正しい人であって、彼女をさらし者にはしたくなかったので、内密に去らせようと決めた。

さて、そのように厳粛な婚約期間にヨセフとマリヤはいました。法律上はすでに結婚しているとみなされていました。

しかし、まだ婚約期間中なのにマリヤが身ごもったことが分かりました。「聖霊によって」と書いてありますが、それを本当に知っているのは神様とマリヤだけです。

マリヤが身ごもっているとヨセフが知った時、言うまでもありませんが非常に動揺したでしょう。

マリヤが「聖霊によって身ごもった」と伝えたかどうか分かりませんが、どちらにせよ自分の子ではない者を宿しているのです。処女が身ごもったことは、聖書の中にも例がありませんので、マリヤに対して大きな疑いの心が起こったことと思います。そして、怒りも。

どれ程の期間、ヨセフが悩んだか分かりませんが、ヨセフの出した結論に彼の信仰が現れています。

彼は、マリヤに対して何を行なうか選ぶことができました。一番ありえるのは、公で訴えて裁判を起こすことです。マリヤは赦されない不貞の罪を犯したので、聖書が言っているように当然の罰を受けさせるのです。それはみことばに従う「正しい」ことです。

しかし、同時に彼の心にあったのはマリヤへの愛でした。「彼女をさらし者にはしたくなかった」という思いが、彼の中心にありました。

それが、「内密に去らせよう」という決断に至らせるのです。

申命記 24 : 1

人が妻をめとり夫となり、妻に何か恥すべき事を発見したため、気に入らなくなり、離婚状を書いてその女の手渡し、彼女を家から去らせ、

姦淫の様な「死罪」ほどではなくとも、妻に非があり、気に入らないことがあった場合、離婚することが可能でした。ヨセフが選んだのはこのみことばに従う道でした。

もしヨセフがマリヤを憎んでいたり愛を捨てていたならば、姦淫罪として公に訴え、彼女に罰を与えたでしょう。それは聖書が命じていることなので、誰からも非難されることはありません。

しかしヨセフは、みことばに従うと同時にマリヤを愛していたので、自分一人で恥を負う道を選びました。事を公にしてマリヤに恥をかかせることをせず、内密に離婚し、自分一人がその苦しみを負って終わりにしようと思いました。

ここにイエス様の姿を見ることが出来ます。神様は罪を決して軽く扱われないお方です。それですべての人は、この神様に裁かれ、死後に永遠の地獄に行きます。

しかし、神様は人を愛してもおられたので、人の罪によって生じる恥をイエス様一人が負われました。本当は、どんなに小さいと思われても、すべての罪は一つ残らず神様から責め立てられて裁かれるのです。しかしその責めを私たちに負わせずに、すべてイエス様が負って死んでくださったのです。

コロサイ 2 : 13-14

13. あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなくして死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦し、
14. いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。

このイエス様を、自分の罪からの救い主と信じるなら、どんな人でも赦されて、救われます。

③隠されたことを教えてくださる神様

マタイ 1 : 20-21

20. 彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れないうあなたを妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。
21. マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」

ヨセフは、信仰と愛によってできる限りの最善の選択をしたように思います。その結果が離婚だったのです。

しかし、神様のみこころはそれ以上のものでした。

ヨセフの夢に御使いが現れて、神様のみこころを教えてくださいました。それは「妻マリヤを迎えなさい」ということでした。

マリヤが姦淫した結果、子どもを身ごもっているのであれば決して受け入れることはできません。それはみことばに反しているからです。また、マリヤが「聖霊によって身ごもった」と言ったとしても、それが本当であるかどうかヨセフには知る術がありませんでしたし、前例がなかったのでどうしたら良いかもわからなかったと思います。ヨセフはただ、みことばが命じていることに忠実であったのです。そして自分が知ることのできない事を、勝手に決めなかったのです。その結果、離婚か裁判しか選択肢はなかったのです。

申命記 29 : 29

隠されていることは、私たちの神、主のものである。しかし、現されたことは、永遠に、私たちと私たちの子孫のものであり、私たちがこのみおしえのすべてのことばを行うためである。

しかし神様は、ヨセフが自分で知ることのできないことを教えてくださいました。それは、マリヤの「胎に宿っているものは聖霊による」ということでした。

「マリヤは姦淫しておらず、本当に聖霊によって身ごもったのだから、あなたは安心して良い」というメッセージでした。そして、ヨセフがすべきことも教えてくださいました。「マリヤを迎えて結婚を完了する」とことと「生まれる男の子にイエスと名付ける」とことでした。

よく思うことは、日常には曖昧なこと、隠されていること、グレーゾーンが多くてみことばに従いにくいということです。

人の気持ちは知ることには限界があります。また物事の捉え方は、立場や状況によって真逆になったりもします。それらを知った上で行動したいと思いますが、いつも知ることができるのは全体の一部分だけです。自分の中で決めつけてしまえば、あるいは神様がはっきりさせてくだされば、どれほどスムーズに生きられるだろうかと思ってしまう。

ここでヨセフから教えられるのは、ヨセフも従いにくい中で最善を尽くしたということですよ。マリヤが聖霊によって身ごもったことは、他ならぬヨセフが信じたかったことでしょう。そうすれば不貞問題と向き合う必要はありませんでした。

逆に「マリヤは姦淫を犯した」と決めつけたくもなったかもしれません。その方が、気持ちが楽になったでしょうし、白黒ははっきりするのです。

しかしヨセフは、自分で決めることをしませんでした。判明している事実の中で、マリヤへの愛と神様への信仰を保って、一番苦しい選択をしたのです。

そんなヨセフの信仰をただお一人、神様はご存知でした。そして神様は隠されていたことをヨセフに明らかにしてくださったのです。

もっと、へりくだって神様に従う必要があると教えられます。たとえ全貌が分からない中で、間違えるかもしれない中でも、委ねてみことばに従うことです。神様だけは、自分が何を悩み、何を信じて選択したのか、すべてをご存知だからです。

分からないことは分からないまま神様に委ねる。そこに信仰が必要です。

④ 神様のご計画

マタイ 1 : 22 - 25

22. このすべての出来事は、主の預言者を通して言われた事が成就するためであった。

23. 「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を生む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)

24. ヨセフは眠りからさめ、主の使いに命じられたとおりにして、その妻を迎え入れ、

25. そして、子どもが生まれるまで彼女を知ることがなく、その子どもの名をイエスとつけた。

ヨセフの葛藤と、御使いが告げたことを見てきましたが、実はその背後には神様のご計画があったのです。

引用されている預言は、イザヤ 14 : 7 です。このみことばは、イエス様の時代からおよそ 700 年前に語られました。700 年前に語られたみことばが、この時実現したのです。ヨセフはそんなこと思いもせず、目の前の出来事に必死だったと思います。しかし神様はこの出来事を、ご計画の成就のために用いられたのです。

そのご計画とは、「神が人とともにいるようになる」ということです。昔、エデンの園で人が造られたとき、神様とともにいました。そもそも人は神様を見上げて、ともに生きるために創造されたのです。しかし人の方から神様を否定し、罪の中で生きる道を選びました。

神様のみこころは、すべての人が「神とともに生きるようになる」ことです。しかし人は、自力で神様の元まで上ることができないのです。多くの宗教は、道徳の宗教です。また努力の宗教です。立派な行い、自己犠牲の精神、熱心な信仰を持つことが求められます。下から上に登っていくことで、自分の価値が高くなったから救われるのです。

しかし聖書の神様は真逆です。人は神様の元まで登れない。それどころか罪から救われることや神様を求めてすらいません。神様は、天から地に降って来られることを選ばれたのです。

マタイ 1 : 23

「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」
(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)

「イエス」は、旧約聖書のヨシュア記の名前にもなっている「ヨシュア」と同じ言葉です。意味は、「主は救い」「主よ救ってください」です。人が罪から救われるために、降って来られた神様なのです。

「インマヌエル」は、「神は私たちとともにおられる」という意味です。罪を赦されるとき、「神は私たちとともにおられる」ことが成就するのです。

実に、イザヤ書が書かれてから 700 年が経った時です。神様はずっと、人を罪から救う道を用意し、この時イエス様によってそれは叶ったのです。どれほどの、思い、どれほどの、熱意でしょうか。

I テモテ 2 : 4-6

4. 神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。
5. 神は唯一です。また、神と人との間の仲介者も唯一であって、それは人としてのキリスト・イエスです。
6. キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自身をお与えになりました。これが時至ってなされたあかしなのです。

もし、イエス様こそ罪からの救い主として来られた神様であり、自分を救うために来られたと信じるなら、その人は救われます。

またヨセフは、自分がそのような偉大な預言の成就に用いられているとは、つゆ知りませんでした。彼はただ、自分の信仰を働かせて、苦しみながら選択をしていたのです。しかし神様は、そのような一個人の悩みや信仰の戦いも、しっかりと見ておられるのです。そして信仰による生き方を、神様のご計画のために知らないうちに用いてくださっているのです。

私たちの持っている聖書、そこに書かれている約束はひとつ残らず守られ、実現します。

イザヤ 55 : 10-11

雨や雪が天から降ってもとに戻らず、
必ず地を潤し、
それに物を生えさせ、
芽を出させ、
種蒔く者には種を与え、
食べる者にはパンを与える。
そのように、
わたしの口から出るわたしのことばも、
むなしく、わたしのところに帰っては来ない。
必ず、わたしの望む事を成し遂げ、
わたしの言い送った事を成功させる。

私たちの日々の選択、他人にとっては小さくても自分には大きな苦しみ、その時には信仰によって進みましょう。

ヨセフがこらえて離婚を覚悟したように、私たちの姿がどんなにみじめであったとしても、神様はそれを見ことばが実現するために用いてくださるのです。